

経済・金融 フラッシュ

ブラジル GDP (2021年10-12月期) ーコロナ禍前の水準を再び回復

経済研究部 准主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

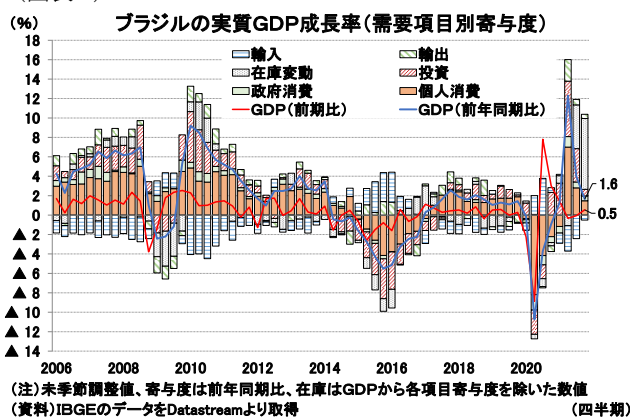
1. 結果の概要: コロナ禍前の水準を再び回復

3月4日、ブラジル地理統計院（IBGE）は国内総生産（GDP）を公表し、結果は以下の通りとなった。

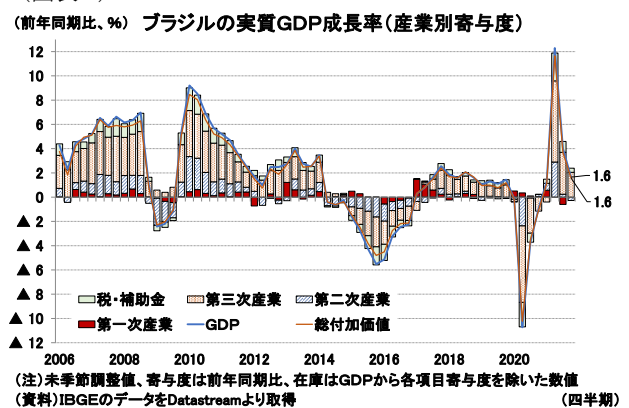
【実質GDP成長率（2021年10-12月期）】

- ・前年同期比伸び率（未季節調整値）は1.6%、市場予想¹（同1.1%）を上回り、前期（4.0%）から低下した（図表1・2）。
- ・前期比伸び率（季節調整値）は0.5%、予想（同0.1%）を上回り、前期（▲0.1%）からプラスに転じた。

（図表1）



（図表2）



2. 結果の詳細: 製造業の伸び悩みが続く

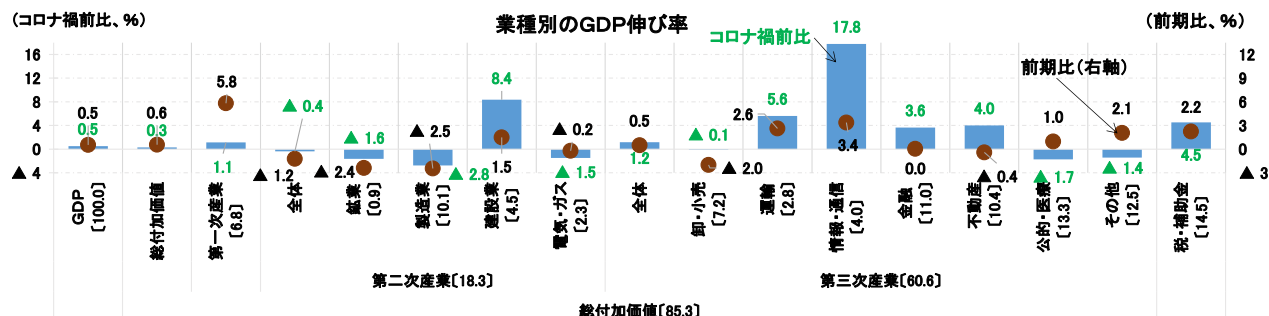
21年10-12月期の実質GDP伸び率は前期比0.5%（季節調整値、年率換算2.2%）となった。ブラジルは4-6月期（前期比▲0.3%）、7-9月期（同▲0.1%）と2四半期連続のマイナス成長となっていたが10-12月期はプラスに転じた。コロナ禍前（19年10-12月期）との対比では、21年1-3月期にコロナ禍前の水準まで回復（+0.4%）、その後、マイナス成長が続いたことで7-9月期はコロナ禍前の水準を下回っていた。10-12月期は再びコロナ禍前の水準を回復（+0.5%）、1-3月期の水準も超えた（図表4・5）。21年暦年の成長率は4.6%（20年は▲3.9%）だった。

成長率（前期比）を需要項目別に見ると、個人消費が0.7%（前期：1.0%）、政府消費が0.8%

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

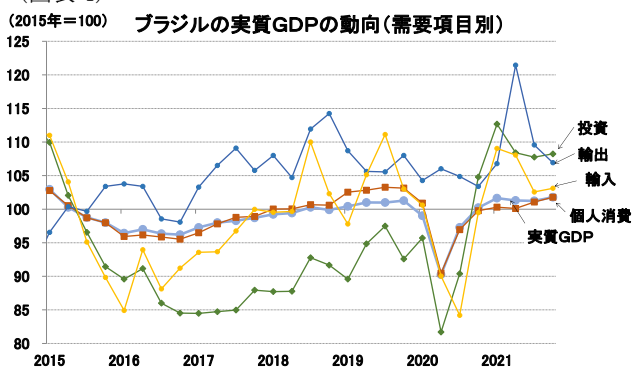
(前期: 1.1%)、投資 0.5% (前期: ▲0.6%)、輸出が▲2.4% (前期: ▲9.8%)、輸入が 0.5% (前期: ▲5.1%) となった。輸出は前期比マイナスとなったが、他の主要項目は着実に回復している。コロナ禍前との対比では、GDP が 0.5%、個人消費が▲1.3%、政府消費が▲0.7%、投資が 16.9%、輸出が▲1.0%、輸入が 0.1% という状況にある。

(図表 3)



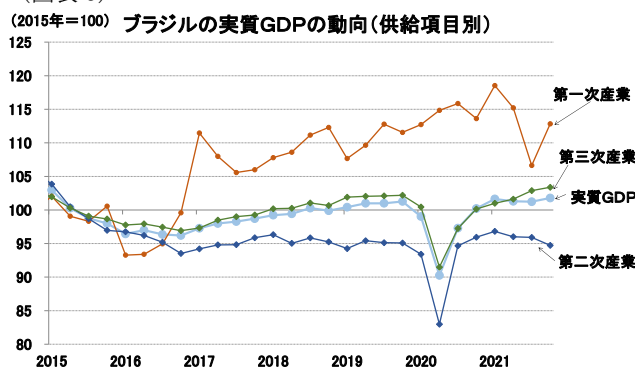
(注)カッコ内は2019年のGDPに占める各産業の割合、グラフに記載している数値(データラベル)は黒が前期比、緑がコロナ禍前比の数値
(資料)IBGEのデータをDatastreamより取得

(図表 4)



(注)季節調整系列の2015年を100として指数化
(資料)IBGEのデータをDatastreamより取得

(図表 5)

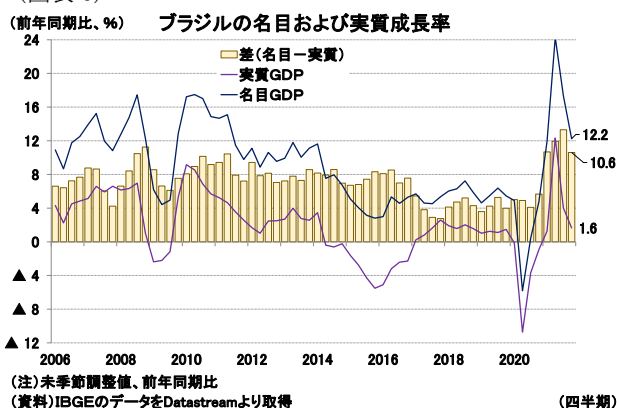


(注)季節調整系列の2015年を100として指数化
(資料)IBGEのデータをDatastreamより取得

産業分類別に実質GDPの伸び率を見ると(図表3)、前期比は大分類では「第一次産業」が5.8% (前期: ▲7.4%)、「第二次産業」が▲1.2% (前期: ▲0.1%)、「第三次産業」が0.5% (前期: 1.2%) となった。第一次産業は持ち直したが、第二次産業の低迷は続いており3四半期連続のマイナスとなっている。第一次産業は7-9月期までは天候不順などを理由に、コーヒーやトウモロコシなどの生産量が少なかった²ことが成長率を押し下げていたが、収穫の時期が終了し影響が剥落した。一方、第二次産業は供給制約などの影響が長期化していると見られる。第三次産業はコロナ禍による低迷から順調に回復している。

最後に、名目成長率では10-12月期は前年同期比12.2% (前期: 17.3%) となった(図表6)、名目と実質成長率の差(デフレータに相当)は10.6%と引き続き高く、高インフレの影響が続いていることが分かる。

(図表 6)



(注)未季節調整値、前年同期比
(資料)IBGEのデータをDatastreamより取得

² ブラジルのコーヒー収穫は生産量が多い年と少ない年を交互に繰り返す特徴がある。今年は収穫が少ない年となっている上天候不順に見舞われたため収穫量が減っていた。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保證するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。